

「平等を手に入れる」

田島貴大・修士1年（看護師）

日本にも平等という言葉はある。けれど、自分が嫌な思いをしなければそれでいい、自分がいい思いをできるならそれでいいという考えの人が多いかと思います。

その結果、未来、老後がお先真っ暗だということでもあるのではないのでしょうか？

ノーマライゼーション・自己決定権・自立支援・個別ケア——スウェーデンでは、みんなが同じ社会ケアサービスを受けられるようにしているとエーミルさんからうかがい、見習う必要があると考えました。

では、平等はどのようにして手に入れたのでしょうか？

スウェーデンでは障害者団体が、「みんながよくなるために」という考えをもって団体活動に取り組んできたとのこと。しかも、民主主義に対しての考え方が幼い時から根付いており、投票率が80%と高い政治の参加率があります。

民主主義の本質である「参加」ができています。そこも日本と大きく異なるのでしょうか。

日本では大型施設重視がつづいています。

一方、スウェーデンでは、在宅、グループホームが大事であると考えています。

病院のベッド数が激減していることがグラフでよくわかりました。病院や大型施設の予算を減らし、その分を、在宅ケアや地域のグループホームなどに振り替えているそうです。

人々は、直接、病院に行くのではなく、まず、ホームドクターにかかり、病院の医療が必要なばあいは、診断書や紹介書により大きな病院へ行くしくみだということです。電話による医療相談センターがあり、24時間、熟練した看護師が対応しています。予算は効率的に使わなくてはいけないという考えが貫かれています。

重症心身障害者でも、障害者の自己決定権を行使するための道具などが工夫されています。問題点を見出して解決するすべを検討することが習慣と化しているのでしょうか。

自己決定を行うことに関しては投票もそうであるし、「自己の決定ができるように自ら調べて、考えて、他者と意見を交換して」といったような意識づけを幼少期からしていることが大きな影響なのかなと考えました。

日本では、幼少期からの、「前に倣え」「横に倣え」です。自己決定をしない「倣えの平等」を与えられ、従っているのだなと考えます。そのようにして育った子供が大人になったときに、自分で考えて決めることをせず、偽りの平等を掲げるのではないのでしょうか。

スウェーデンは税金が世界1、2に高い国。にもかかわらず、国内の成長率は上昇傾向にあります。みんなが頑張ろうという意識をもっているためでしょうか。

